

いわき市総合防災訓練の実施支援を行いました (2024/6/29)

テーマ：令和6年度第1回いわき市総合防災訓練【大雨・洪水編】に参加しました

会場：いわき市役所 など

URL：<https://www.city.iwaki.lg.jp/www/contents/1717383485632/index.html>

2024（令和6）年6月29日（土）、いわき市長も参加する同市の総合防災訓練において、東北大学災害科学国際研究所との「防災に掛かる連携と協力に関する協定」に基づき、柴山明寛准教授（災害文化アーカイブ研究分野）と鎌田健一特任教授（地震津波リスク評価（東京海上日動）寄附研究部門）が防災訓練の実施支援を行いました。

今回の訓練は、昨年度大きな被害をもたらした線状降水帯の発生を想定して実施され、また、この春に新しく導入した福島県総合防災情報システムを全面的に活用して被害情報等の共有・連携を行う初めての防災訓練となり、柴山准教授が訓練状況の全体評価と講評を行いました。

同規模自治体としては相当充実した内容の防災訓練を同市では年2回行っていることもあり、時間軸を圧縮した極めて密度の高い訓練内容にも順応し、市民や報道機関等からの想定問い合わせにも、練度の高い対応ができていました。一方、新しいシステムの使いこなすと従来型の「紙」による情報連携の融合等、今後の更なる効果的な対応の検討等の課題も確認されました。

また、本防災訓練に並行して、市役所前にて能登半島地震でも実際に派遣されていた温水清掃便座を装備したトイレカーを展示し、停電時を想定してこのトイレカーに対する燃料電池自動車による給電の実証実験と、災害時の避難にも活用が期待されるシニアカーの展示・試乗も併せて実施しました。

「逃げ遅れゼロ」「災害死ゼロ」を目指して取り組んでいるいわき市の防災訓練を、当研究所では今後も支援を継続していきます。



防災訓練後に災害対策本部で講評している様子（左端・柴山准教授）